

# 伊勢原市の桂川家墓地

## 将軍の代々侍医

Key

[ 9代の業績 解体新書 ポタニクス ]

ガイド

伊勢原市上粕谷875  
日蓮宗富士山 上行寺  
小田急線伊勢原駅下車、バス大山ケーブル駅行  
山王中学前下車 5分

伊勢原市下粕谷143  
東海大学病院の西北 2 km



伊勢原市上粕谷、太田道灌の墓の近くに上行寺(じょうぎょうじ)がある。この寺には江戸時代後期、初代から7代まで150年間代々将軍の侍医であった桂川一家の墓がある。桂川一家は蘭学界の名門中の名門であり、代々外科医として最高の法眼の地位にあり、蘭学圧迫時代にも例外として蘭書を読むことが許可されていた。

門を入った正面左手に桂川一家の墓がある。墓に向かって左側が桂川家累代の碑である。初代から9代までの業績が簡単に記されている。右側の大石碑には4代甫周の業績がやや詳しく記され、後方14基の墓碑には歴代の戒名が刻まれている。

7代の中でも、3代桂川甫三・国訓は青木昆陽について蘭学を学び、杉田玄白、前野良沢らと友人であった。4代桂川甫周・国瑞は

月地と号し『解体新書』の翻訳に参加、チュンベリーについて外科学を学んだ。6代桂川甫賢・国寧は優れた蘭学者であり、蘭館長ズーフからポタニクス(植物学者)と名づけられシーボルトとも親しく交際した。7代桂川甫周・国興に蘭館長ズーフはいわゆる「ズーフ・ハルマ」を編集させ20年後に完成した。しかし幕府はこれの普及を許可しなかった。そのため周甫らはズーフ・ハルマを改定し、『和蘭字彙』を作り後世に伝えた。

この寺は1567年小田原に富士山上行寺として創設されたのが最初であるが、のちに江戸東京に移転した。1962年(昭和37)俳人室井其角、将棋名人で将棋の駒を象った大橋家の墓碑と共に東京三田の二本榎から当伊勢原市に安住の地を求めた。そんなわけで上行寺の入り口には「史跡 桂川甫周の墓」と記した二メートルほどの石柱が建っているが、裏に「東京都指定」と書かれているのはこうした理由によるためであろう。

東洋文庫の『名ごりの夢』の著者今泉みねは7代桂川甫周の娘で、その息子が今泉源吉で、篠崎書林発行蘭学の家『桂川の人々』3巻の著者である。『名ごりの夢』には明治の最高の文化人が語るサロンの様子がいきいきと描かれている。〔大滝紀雄〕